

権威DNSサービス 調査報告

～続・DNSサービス申し込みBoot Camp!～

2021年6月25日(金)

DNSOPS.JP幹事会

調査の背景

• 前提

- インターネットサービスの多様化により、サービス情報を提供する汎用データベースとしてDNSの役割が増加している
- それにともない新しいリソースレコードの定義や、既存リソースレコード(特にTXTレコード)のユースケース追加などが行われている

• 認識

- 一般的な組織の権威DNSサーバ運用者(ゾーン管理者)はDNSプロトコルや新しいインターネットサービスの専門家ではないため、すべてのリソースレコードを理解し正しく設定できることは期待できない
- 現代においては、権威DNSサーバの自前運用は設定ミスや大量クエリによるサービス障害の原因となり得るため、一般的な組織においても推奨されない

調査の目的

- 組織のシステム管理部門やサービス提供部門が、それぞれの目的に沿って適切な権威DNS(自ゾーン)を運用可能とするため、国内外で提供されている代表的な権威DNSサービスの機能一覧作成が望まれる
- 本調査の目的は、そのような機能一覧となることである

機能の優劣をつけることや、
特定のサービスを推奨することは目的ではありません。

調査項目

- 組織におけるDNSの利用目的に沿って適切な権威DNSサービスを容易に選択できるようになることを念頭に、以下の観点で権威DNSサービスの機能を調査する

項目	概要
機密性	サービスコンソールログインが多要素認証、ロールベース認証、ゾーン転送にTSIGが利用可能、サブドメイン名ハイジャック対策
可用性	権威DNSサーバの地域冗長性、レスポンスレートリミット、他権威DNSサービスとのセカンダリ連携、地域指定可能、SLA規定、更新処理のDR化
完全性	バックアップ有無・頻度、DNSSEC対応
利便性	専門知識を有しないユーザが目的の設定を容易に行えること、大量のリソースレコードを一括登録できることなど
リソースレコード	最低でもA/AAAA/CNAME/MX/NS/TXT/SRVに対応していること、CAAやDNSSECに対応していることなど
サポート	運用レポートが作成されること、問い合わせが可能で時間帯が明確であることなど
コスト・契約	課金体系が明確であること、契約期間や解除方法が明確であることなど

調査しながら整理中

調査項目

- 組織におけるDNSの利用目的に沿って適切な権威DNSサービスを容易に選択できるようになることを念頭に、以下の観点で権威DNSサービスの機能を調査する

項目	概要
機密性	サービスコンソールログインが多要素認証、ロールベース認証、ゾーン転送にTSIGが利用可能、サブドメイン名ハイジャック対策
可用性	権威DNSサーバの地域冗長性、レスポンスレートリミット、他権威DNSサービスとのセカンダリ連携、地域指定可能、SLA規定、更新処理のDR化
完全性	
利	
リ	
ド	
サポート	サポートが作成されること、問い合わせが可能で時間帯が明確であることなど
コスト・契約	課金体系が明確であること、契約期間や解除方法が明確であることなど

**この実体験、まさにBoot Camp!
運用経験も蓄積してきました**

調査しながら整理中

本日の報告

- [調査レポート\(2021年4月9日版\)](#)の概要紹介
 - 詳細は[調査結果詳細シート](#)に記載
- その後の更新情報紹介
 - 得られる定期運用レポートなど

参加者のみなさまへのお願い

- 調査に対するフィードバックにご協力ください
- 以下の2種類(ユーザー用・事業者用)がありますので、ご自身にとって適切と思われる方を選んでご回答ください



[権威DNSサービスユーザー用](#)



[権威DNSサービス事業者用](#)

調査費用(実費)はDNS Summer Day 2020および**2021**に
協賛いただいた費用の一部を使用しております。
協賛をいただいた各社様にこの場を借りてお礼申し上げます。